

2018年8月9日

飯沼一元

## 飯沼貞吉の白虎隊自刃16人証言の根拠

白虎隊自刃の図は沢山ありますが、嚙矢となった白虎隊自刃の図は下記の穂積朝治の作品です。

この図は会津に保管され、時々展示もされていて有名で、多くの方がご存じです。この図は貞吉の証言に基づいて、生還した貞吉を除く15人が描かれています。その経緯を文献に基づいて以下に説明します。

1. 貞吉は自刃後、救出され喜多方の不動堂に約1か月隠棲して傷を癒します。

その後、会津藩士が収容されていた猪苗代謹慎所(亀が城)に出頭します。

氏は家僕藤太に伴われ、城中に入る。 文献1『白虎隊事績』

2. 貞吉はそこで父時衛一正と再会します。

氏(貞吉のこと)の父また城中に在りて、共に再会の胸襟を語る。

文献1『白虎隊事績』

3. 穂積朝春に自刃劇を語ります

氏(貞吉)父子が謹慎中、家敵(父のこと)の隊に頼る画を善くするものがあつた。

その者の望みに任せて、氏は飯盛山に於ける白虎隊自刃の時の光景を語りて聞かせる。この実話に基づいて、その者が唐紙の全面に描いたものが、即ちそれ(「白虎隊自刃の図」)なのである。

文献2『河北新報記事』

## 捕捉1

貞吉の父一正は青龍隊の隊長でその配下に、一瀬勘助という人物がいた。勘助は会津では高名な絵師に付いて学んだ絵の達人だった。絵師名は穂積朝春という。

貞吉は飯盛山で自刃したのは、自分を含めて16人と証言した。

穂積は、生還した貞吉を除いた15人を描いた。

## 捕捉2

この他に、貞吉は白虎隊顛末記(文献3)、白虎隊事績(文献1)、河北新報記事(文献2)等で、自刃は自分を含め16人と記しています。

これは、貞吉の一貫した証言でブレは全くありません。

文献1 白虎隊事績 中村謙著 明治27年 国会図書館

文献2 白虎隊実歴談 河北新報記事 明治43年7月3~5日

文献3 白虎隊顛末記 会津人群像 No16 平成22年 歴史春秋(株)

文献4 白虎隊士飯沼貞吉の回生 飯沼一元著 2013年 ブイツーソリューション

